

令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪市立異南小学校 学校協議会

1 総括についての評価

本年度の学校の自己評価結果は概ね妥当である。
学校行事を含め教育活動は、3つの最重要目標の達成に向け、計画通りに実施されてきた。
しかしながら、「大阪市小学校学力経年調査」や「全国体力、運動能力、運動習慣等調査」の結果からも、今後も継続的に学力向上や体力向上に向け取り組んでほしい。
また、安全安心な学校づくりに努めてほしい。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

○令和7年度の大阪市小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。

○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

学校独自の目標

・令和7年度の大阪市小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86%以上にする。

達成状況と評価は概ね妥当である。

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、「とてもそう思う」と最も肯定的に回答した児童の割合は、3～6年生において88.2%であった。学校アンケート（児童）では、「とてもそう思う」と最も肯定的に回答した児童の割合は全校で99%であり、目標は達成していた。

大阪市小学校学力経年調における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答した児童（3～6年生）の割合は77.4%であり、目標に達していなかった。（学校アンケートでの1～6年での肯定的な回答は90%であった。）

不登校児童への対応やいじめ対策への早期対応ができている、不登校児童の割合は変わっていないが、個々の児童の状況は改善も見られた。個に応じた指導、SSWやSCの活用、こども相談セターや区役所等との関係機関との連携も継続してほしい。

今後はさらに子どもの自己肯定感が高まっていけるように学習の工夫や新たな取り組みが必要である。引き続き、子どもが安全に安心して生活できるようきめ細やかな指導をお願いしたい。

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和7年度の大阪市小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を60%以上にする。

○令和7年度の大阪市小学校学力経年調査における国語及び算数の平均正答率の全国比を、同一の母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。

○令和7年度の大阪市小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を65%以上にする。

学校独自の目標

- ・令和7年度の大阪市小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を42%以上にする。
- ・令和7年度の大阪市小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を76%以上にする。

達成状況と評価は概ね妥当である。

学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答した割合は、3年生36.4%、4年生35.7%、5年生33.3%、6年生33.3%であった。国語及び算数の平均正答率の対市比経年比較は、国語4年生90.3→92.6、5年101.4→104.0、6年97.5→97.3、算数4年90.1→90.8、5年98.6→100.4、6年96.0→94.6であった。学力経年調査結果の結果から学力の向上も見られるが、今後も市平均正答率に近づく（上回る）ように、学力向上に向けた取り組みを継続して行ってほしい。

学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合は、3年生86.4%、4年生75.0%、5年生77.8%、6年生71.1%であった。運動やスポーツが好きな児童が多いが、全国体力、運動能力・運動習慣等調査の結果からも体力の向上については課題が見られる。体育の授業の工夫、外遊びの推進などの取り組みを継続して行ってほしい。

年度目標：【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

○各学級において、デジタル教材を活用した学習を1日1回以上実施する。

○教職員の働き方改革をよりいっそう推進し、ゆとりの日を週1回設定・実施し月1回定時退庁日を設ける。

学校独自の目標

- ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の60%以上にする。
- ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。

達成状況と評価は概ね妥当である。

授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を利用した日数は増えてきているが、年間を通すと目標を下回っており、今後もICT機器（一人一台端末・デジタル教材等）の有効な活用について検討して行ってほしい。

「ゆとりの日」「定時退庁日」を設定し、教職員が働き方改革の推進を意識できる環境が整っており、今後も時間外勤務時間の減少に向け取り組みを続けてほしい。

3 今後の学校園の運営についての意見

- ・学力、体力の向上に向けた取り組み、また、ICTを活用した取り組みをさらに進めることを期待している。
- ・いじめ、不登校の早期発見、早期解決、不登校へのていねいな対応を進めてもらいたい。
- ・ホームページや学校だより等による情報発信は大変有意義であり、今後も地域との協働体制を推進してもらいたい。